

1. 中国大使、ミャンマー政府を擁護 「ロヒンギャは内政問題」

中国の洪亮駐ミャンマー大使は13日、ネピドーでウィン・ミヤ・エー社会福祉・救済復興相と会談し、ミャンマーのイスラム教徒少数民族ロヒンギャの武装集団と治安当局との衝突について「内政問題」とする中国政府の立場を伝えた。洪氏は「治安当局によるテロリストへの反撃と、政府による避難民への人道支援を支持する」とも表明。隣国バングラデシュに逃れるロヒンギャ難民が拡大し国際的に批判されているミャンマー政府を擁護した。

2. 民主活動家団体、ラカイン問題で政府を擁護

1988年のミャンマー民主化運動を主導した活動家らで組織する市民団体「88年学生世代の平和で開かれた社会(88年学生世代)」は、西部ラカイン州で続いているイスラム教徒少数民族ロヒンギャの武装集団と治安当局との衝突について、政府を擁護する立場を明らかにした。88年学生世代の指導者ミン・コー・ナイン氏は13日の記者会見で「問題は民族や宗教ではなく、入国管理法とテロだ」とした上で、「(自称)ロヒンギャは、政府によって公式に認められた135の民族に含まれていない」と指摘した。別の指導者ウー・ジミー氏は「民主主義への移行に懸命に取り組む政府を批判し、取り組みを弱めようするのは間違い」との意見を示した。

3. 武装勢力連合、ロヒンギャ救世軍を非難

ミャンマー政府との停戦協定(NCA)に未署名の少数民族武装勢力の連合「統一民族連邦評議会(UNFC)」は、イスラム教徒少数民族ロヒンギャの武装組織「アラカン・ロヒンギャ救世軍」(ARSA)を批判した。UNFCは11~12日、タイ北部のチェンマイで会合を開催。NCAのほか、ARSAと治安当局との衝突で悪化している西部ラカイン州の情勢について協議した。議長を務める新モン州党(NMSP)のナイ・ホン・サー氏は「暴力に訴えるARSAを認めない」と述べた。UNFCは「ロヒンギャ」の呼称を認めないとする政府の立場を支持、政府との包括的和平交渉にARSAを参加させない方針も示した。ミャンマー政府はロヒンギャは不法移民との立場を示し、国内の少数民族とは認めていない。UNFCにはNMSPのほか、カレンニー民族進歩党(KNPP)、ラフ民主同盟(LDU)、アラカン民族協議会(ANC)、シャン州進歩党(SSPP)が加盟している。

4. 中国政府、スー・チー氏演説を評価

中国外務省の陸慷報道局長は19日の記者会見で、ミャンマーのスー・チー国家顧問がイスラム系少数民族ロヒンギャの帰還に前向きな演説を行ったことを受け、「ミャンマー政府は国内の平和と民族の和解を実現しようと尽力している」と評価した。陸氏はまた、「中国は友好的な隣国として、ミャンマーが国内の安定と発展を維持するために必要な支援を引き続き提供する」と述べた。中国はシルクロード経済圏構想「一帯一路」に絡みミャンマーとの戦略的関係を強化している。

5. スー・チー氏、国連総会欠席＝ロヒンギャ問題で批判

ミャンマー外務省高官は12日、アウン・サン・スー・チー国家顧問がニューヨークで今月下旬に開かれる国連総会に出席しないことを明らかにした。取材に「国内に優先的に取り組む問題がある」と説明した。スー・チー氏は、イスラム系少数民族ロヒンギャの問題をめぐって国際社会の批判を浴びている。高官によると、国連総会にはヘンリー・バン・ティオ副大統領が出席する。スー・チー氏は昨年の総会で、実質的な政権トップとして初めて一般討論演説を行った。

6. スー・チー氏に高まる批判＝ロヒンギャ問題、対応遅く

ミャンマー西部ラカイン州から隣国バングラデシュへの大量脱出が続くイスラム系少数民族ロヒンギャの問題をめぐって、スー・チー国家顧問に対し、国際社会から批判が高まっている。迫害を受けているロヒンギャ住民の保護に向けて迅速に対応せず、問題解決に積極的な動きを見せていないためだ。「ロヒンギャの深刻な苦境をめぐるスー・チー氏の長い沈黙は恥ずべきことだ」(英紙ガーディアン)、「スー・チー氏は民族浄化の最大の擁護者」(米紙ニューヨーク・タイムズ)などと、欧米メディアを中心に批判的な論調が広がっている。スー・チー氏は、ロヒンギャの武装集団による警察施設などへの大規模襲撃が起きた8月25日に発表した声明で「テロリストによる残酷な攻撃」と強く非難。一方で、「多くの試練に直面して大いに勇気を持って行動している警察と治安部隊のメンバーを称賛したい」と表明するなど、国軍と警察を全面的に擁護する姿勢を示してきた。

タイ・チュラロンコン大学アジア研究所のサラウト・アリー氏は「スー・チー氏はロヒンギャ問題解決への具体的な意

思を示さず、しばしば国軍の立場と一致した声明を出してきた」と指摘。スー・チー氏は政治家として人気を維持するため、反ロヒンギャ感情が根強いミャンマーの多数派仏教徒に同調し、「人権の擁護と国民の平等を推進するという民主体制における政治指導者としての正当性を失った」と断罪する。スー・チー氏の「限界」を指摘する見方もある。ミャンマー国軍は軍事政権下で制定された憲法で強大な権限が保障され、政府ではなく、国軍総司令官の統制下にある。このため、「(ロヒンギャの民間人に対する攻撃を)止められる唯一の人物はスー・チー氏ではない。ミン・アウン・フライン国軍総司令官だ」(人権団体ビルマ・ヒューマン・ライツ・ネットワークのチョー・ウイン代表)として、国際社会に総司令官に圧力をかけるよう訴える動きが出ている。

7. 米重鎮議員「暴力と破壊」迫害批判

米共和党の重鎮マケイン上院議員は12日の声明で、ミャンマー西部ラカイン州でイスラム教徒少数民族ロヒンギャが迫害されていることを「暴力と破壊の活動だ」と非難した。同国の事実上トップのスー・チー国家顧問兼外相による事態打開に向けた「行動がない」と失望を表明した。マケイン氏は上院軍事委員長として、2018会計年度(17年10月～18年9月)の国防予算の大枠を決める国防権限法案に盛り込まれた米国とミャンマーの軍事協力を拡大するとの文言について、削除を目指す意向を示した。

8. インドネシア政府、ロヒンギャ難民に救援物資

インドネシア政府は13日、ミャンマーからバングラデシュに逃れたイスラム教徒少数民族ロヒンギャに向け、軍用輸送機で人道支援物資の搬送を始めた。物資は食料や水、テント、毛布などで、地元メディアによると計34トン。ジョコ大統領がジャカルタの空港で搬送の様子を見守った。国際移住機関(IOM)によると、バングラデシュに逃れたロヒンギャは37万人に達している。世界最大のイスラム教徒人口を持つインドネシアでは、イスラム団体によるミャンマー政府に対する抗議デモが頻発。ジョコ氏はルトノ外相をミャンマーに派遣するなどして調停に乗り出している。

9. 国連、ロヒンギャ問題を非難＝ミャンマーに暴力停止要求－総長と安保理

ミャンマー治安部隊による掃討作戦に伴い40万人近いイスラム系少数民族ロヒンギャが隣国バングラデシュに脱出している問題で、グテレス国連事務総長と国連安全保障理事会は13日、暴力の激化を相次いで非難し、ミャンマー政府に事態の改善を要求した。1991年のノーベル平和賞受賞者スー・チー国家顧問率いるミャンマー政府はますます苦しい立場に追い込まれそうだ。事務総長は、国連本部で記者会見し、ミャンマー政府に対し「軍事行動と暴力の停止」「法の支配の維持」を訴えた。続いて安保理も、暴力停止へ「緊急対応」をミャンマーに促した。今回の問題で安保理が意思表明するのは初めて。安保理はこの日、英国とスウェーデンの要請でロヒンギャ問題に関する会合を非公開で開催。会合後、掃討作戦中の過剰な暴力の報告に「深い懸念」を表明し、暴力停止や法と秩序の回復に向け「緊急な対応」を要請することで安保理が一致したと発表した。一方、AFP通信によると、エジプトはロヒンギャの「帰還する権利」を発表に盛り込むよう求めたが、中国の反対で見送られた。ライクロフト英国連大使は会合後、ミャンマー問題で安保理が一致して意思表示できたのは9年ぶりだと指摘し「きょうの合意は重要な一歩だ」と強調した。また、国連総会のため各国から首脳や閣僚が集う来週、ミャンマー問題で少なくとも2回、会合が開かれると明らかにした。

一方、グテレス氏は、国外に脱出した全てのロヒンギャの帰還する権利を認めるようミャンマー政府に要請。「普通の生活を送れるよう(ロヒンギャは)国籍、少なくとも法的地位が認められなければならない」と訴えた。また「人道状況は破滅的」と警告し、各国に難民支援を要請。ミャンマー西部ラカイン州の状況が民族浄化に当たるか問われると「ロヒンギャの人口の3分の1が国外に逃れている時、それ以上に適切な言葉が見つかるだろうか」と答え、該当するという厳しい認識を示した。

10. ロヒンギャ問題でスー・チー氏に苦言＝カナダ首相

カナダのトルドー首相は13日、スー・チー国家顧問と電話で会談し、40万人近くがバングラデシュに逃げ出しているイスラム系少数民族ロヒンギャ問題の解決を訴えた。現状に対する「深い懸念」を伝えた上で、ミャンマーにおけるスー・チー氏の役割は「倫理と政治の両方の指導者だ」と強調した。カナダ首相府が発表した。軍政と闘ってきたスー・チー氏はカナダ名誉市民になっている。カナダ首相府の声明は、ミャンマー軍や市民社会の指導者に対して「衝突を停止し、市民の保護や国連、支援団体が現場に問題なく入れるよう強い立場を明確にすること」を要求した。

11. ロヒンギャ問題で団結を＝軍総司令官、国民に訴え

ミン・アウン・フライン国軍総司令官は16日、公式フェイスブックを通じて出したコメントで、イスラム系少数民族ロヒンギャは「ベンガル人の過激派だ」と改めて強調し、「真実を確立するため、団結しなければならない」と国民に呼び掛け

た。総司令官は、西部ラカイン州でのロヒンギャ武装集団と治安部隊の衝突は8月25日以降、93回に達したことを明らかにし、「州内に拠点を設置しようとする組織的企てだ」とロヒンギャを非難。「彼らはロヒンギャとして認めるよう求めているが、そのような民族はミャンマーにはいない」と述べた。

12. 国際テロ組織との関係否定、ロヒンギャ組織

西部ラカイン州で治安当局と衝突しているイスラム教徒少数民族ロヒンギャの武装集団の中核組織「アラカン・ロヒンギャ救世軍」(ARSA)は16日までに、ツイッターに国際テロ組織とARSAは「アルカイダ、『イスラム国』(IS)、ラシュカレトイバなどいかなる国際テロ組織とも関係はない」と主張。「こうした組織がラカインの戦闘に関わるのを歓迎しない」としている。ミャンマー政府はARSAをテロ組織と認定。先にARSAと国際テロ組織との関係を指摘する報道が出ていた。

13. ロヒンギャに組織的放火、人権団体が非難

国際人権団体アムネスティ・インターナショナル(本部ロンドン)は15日までに、衛星写真や目撃証言などの分析を基にミャンマー西部ラカイン州で、イスラム教徒の少数民族ロヒンギャの居住地域に対し、治安当局などによる「組織的な焼き打ちや放火」が行われていると非難する声明を出した。アムネスティによると、ロヒンギャの武装集団が警察や国軍の施設を襲撃した8月25日以降の約3週間で、ラカイン州北部の居住地域の80カ所以上が焼かれたという。声明は、治安当局などが村々を包囲し、住民に発砲、住宅に火を放っていると指摘。「ロヒンギャをミャンマーから追い出す作戦が行われている動かぬ証拠」で人道に対する罪だと強調した。

14. バングラデシュのロヒンギャ避難所パンク状態、ゾウに踏まれ2人死亡

バングラデシュ警察は、南東部ロックスバザールで18日、隣国ミャンマーから避難してきたイスラム系少数民族ロヒンギャ難民の高齢者2人が野生のゾウに踏まれて死亡したと明らかにした。難民の代表者の一人によると、2人は最近、避難してきた。「18日早朝、ビニールテントで寝ているところを野生のゾウたちが踏みつぶしてしまった」と証言している。ミャンマー西部ラカイン州でロヒンギャ武装集団と治安部隊の衝突が起きた8月25日以降、41万人以上のロヒンギャ難民がバングラデシュに避難している。避難所はすでにパンク状態で、後から到着した難民は草木を集めてこの時期の豪雨をしのいでいる。

15. ダッカで2万人、ロヒンギャ連帯デモ

ミャンマー西部ラカイン州でのイスラム系少数民族ロヒンギャ「虐殺」に抗議し、バングラデシュの首都ダッカで18日、約2万人がデモを行った。デモに参加したのは、強硬派イスラム団体のメンバーら。白い服を身に付け「神は偉大なり」と叫びながらミャンマー大使館を包囲、ロヒンギャへの残虐行為停止を訴えた。デモに参加したマドラサ(イスラム神学校)教師マオラナ・サイフッディーンさん(27)は「大使館包囲は、同じイスラム教徒への虐殺を容認しないという、ミャンマー政府へのメッセージだ」と強調。苦境に陥ったロヒンギャへの連帯を参加者は口々に叫んだ。ミャンマーへの強い姿勢を求めるイスラム強硬派にハシナ政権は苦しんでいる。

16. スー・チー氏、調査受け入れ示唆＝ロヒンギャ問題で演説

ミャンマーのイスラム系少数民族ロヒンギャが大量に隣国バングラデシュに脱出している問題で、スー・チー国家顧問は19日、テレビを通じて国民向けに演説し、国連の調査を受け入れる用意があることを示唆した。ロヒンギャ迫害に対する国際的な批判が高まる中、状況の改善を目指している姿勢を強調した。スー・チー氏は「ミャンマーが宗教や民族で分断された国となることを望んでいない。憎しみや恐怖は災難の元だ」と述べ、和解を訴えた。西部ラカイン州で8月25日、ロヒンギャの武装集団が警察施設などを次々と襲撃したのをきっかけに、治安部隊が掃討作戦を展開した後、スー・チー氏の演説は初めて。劣悪な環境に置かれている避難民の人道危機は深刻化する一方で、国際社会は懸念を強めている。ノーベル平和賞受賞者であるスー・チー氏への風当たりは強まっており、国連安保理はミャンマー政府に暴力停止や法と秩序の回復に向けた緊急対応を要請することで一致した。

17. 「迫害の確認が重要」国連人権理の調査団長

国連人権理事会は19日、ミャンマー西部ラカイン州で続くイスラム教徒少数民族ロヒンギャへの迫害問題を討議し、人権理が任命した国際調査団長のダルスマン氏が「迫害の事実を直接確認することが重要だ」と述べ、ミャンマー政府に調査団受け入れを求めた。欧米やイスラム諸国からは「民族浄化とも言える状況で、深刻な人道問題だ」などと非難が相次いだ。国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)によると、8月25日に始まったロヒンギャの武装勢力と治安部隊との衝突で隣国バングラデシュに脱出したロヒンギャ難民は推計42万1千人に達した。

ダルスマン氏はミャンマー政府からの入国許可を待っていると説明。人権理でミャンマー代表は「問題解決に国際調査団は役に立たない」としながらも、スー・チー国家顧問兼外相が平和的解決の意思を表明していると強調した。難民を受け入れているバングラデシュの代表は、ミャンマー治安部隊のロヒンギャ攻撃が今も続いていると非難した。人権理は3月、ロヒンギャ問題で国際調査団の設置を決議。北朝鮮人権問題の特別報告者を務めたダルスマン氏を団長に任命した。

18. マウンドー経済区の第1期、年内完成目指す

ミャンマー西部のラカイン州政府は、バングラデシュと国境を接するマウンドー郡区で開発中の「カニン・チャウン経済区」の第1期に当たるA区画を、年内に完成させたい意向を示した。同州のチョー・エー・テイン財務・徴税・計画・経済相は「A区画は当初、今年3月に完成予定だったが、治安悪化などで工事がずれ込んだ」とした上で、「治安回復とともに工事を再開し、年内に完成させたい」と意欲を示した。ただ具体的な再開のめどは立っていない。完成後も厳重な警備体制下で運営していく方針。

19. 最近の外資の進出状況

・シンガポールのウィルマーのティラワ埠頭、11月完工へ

ヤンゴン郊外のティラワ港に、新たな埠頭(ふとう)が11月に完成する見通しだ。ウィルマー・ミャンマーの親会社、パーム油世界最大手ウィルマー・インターナショナルは、運輸・通信省傘下のミャンマー港湾局(MPA)とBOT(建設・運営・譲渡)方式の契約を締結。2016年4月に着工し、11月に完成予定の埠頭と関連施設に続き、18年に製粉、貯油施設が完成する予定。

・味の素、17年ぶりにミャンマーで生産再開

味の素は14日、ミャンマーで17年ぶりに工場生産を再開したと発表した。ヤンゴンの南東郊外にあるティラワ経済特区(SEZ)でうまみ調味料「味の素」の梱包生産を開始、来年には粉末コーヒー飲料の工場も稼働予定で、早期に売上高100億円を超える事業規模を目指す。

・韓国系企業、中部エヤワディで新開発計画

ミャンマーの地場企業と韓国系のコンサルティング会社が、中部エヤワディ管区で、新たな工業地区の開発に向けた調査に当たっている。すでに管区の中心都市で海沿いにあるパティンで、大型貨物船に対応する港の整備計画を策定した。近日中に調査結果をまとめて管区政府に提出し、国の経済特区(SEZ)に指定される規模の開発を目指す。

・ミャンマー・中国合弁の天然ガス発電所18年稼働

中国雲南省のエンジニアリング会社、中国雲南能投聯合外経(UREC)と、ミャンマーの電力・エネルギー省が合弁で建設したコンバインドサイクル天然ガス発電所が2018年第1四半期に運転を始める。

・台湾の宏全国際、ミャンマー飲料水大手と受託製造契約

台湾の飲料用パッケージ製造大手の宏全国際は14日、ミャンマーの飲料水大手「Loi-Hein」と、ペットボトル入り飲料水の製造を受託する契約を締結したことを明らかにした。契約期間は10年。宏全は、現地で3カ所目の工場建設を進めており、2018年1～3月期の稼働を予定。新工場の年間売上高は約3億台湾ドル(約11億円)と見込む。

・味の素、ティラワ工場竣工式 20年に600人規模へ拡大目指す

味の素は19日、ティラワ経済特区(SEZ)で新たに建設した、生産工場の竣工式を開いた。うま味調味料「味の素」の包装、生産を行い、将来的に国内全域で販売する。マーケティングの強化とともに、今後数年間で工場を増設、コーヒーなどの粉末飲料や風味調味料など生産する商品の種類を増やしてミャンマー事業を拡大する。従業員は現在の7倍超となる600人まで増やす。

以上